

令和4年度 第4回 青森支部評議会の概要報告（速報）

開催日時	令和4年12月16日（金）13：30～15：30
開催場所	ZOOMによるオンライン開催
出席評議員	秋田谷評議員、大坂評議員、木村評議員、今評議員、神評議員、藤沼評議員、 吉田評議員 (五十音順)
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和4年度青森支部事業計画の上期の実施状況について</li> <li>2. インセンティブ制度に係る令和3年度実績について</li> </ol>
議事概要 (主な意見等)	<p>改選後初の評議会につき、議長に藤沼評議員、副議長に神評議員を選出後、議事に入った。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>議題1について、事務局より資料に基づき説明。</p> </div> <p><b>●令和4年度青森支部事業計画の上期の実施状況について</b></p> <p><b>【学識経験者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青森県全体として、平均寿命の延伸やがん死亡率の減少、生活習慣病の重症化予防が大きな課題となっている。本人の同意があれば市町村にデータ提供することが可能と思われるので、市町村とのデータの共有化を進めていき、保険者ごとの壁を越えた横の連携を図っていただければ、県全体の課題解決につながると思うがいかがか。</li> </ul> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見のとおり、広く行政、自治体等と連携しながら県民の健康づくりに取り組んでいく必要がある。協会けんぽ青森支部加入者における県内の地域ごとの医療費分析結果について、県内全市町村に情報提供を行った。各被用者保険並びに国保の健診データ等を持ち寄って分析をすることで、県民全体の健康状態が把握できると考えており、保険者協議会等、然るべき所に更なる連携が進むよう働きかけていきたい。</li> </ul> <p><b>【被保険者代表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被扶養者の特定保健指導実施率について、令和4年度上期の実績が令和3年度末実績の倍以上となっているが、どういう事業の効果か。</li> </ul> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被扶養者の健診データは、10月実施のまちかど健診によってかなり増えることとなる。健診結果が増えることにより、実施率の分母となる特定保健指導対象者も増えることになる。上期においては、分母となる特定保健指導対象者数が少ないため、1、2件の実施でも実施率が高くなっている。</li> </ul>

**【学識経験者】**

・特定保健指導について、健診当日に初回面談を実施できていない健診機関があるとのことだが、初回面談は実施しなくてもよいルールなのか。

(事務局)

・健診機関において、特定保健指導にあたる医師、保健師等の保健指導者がいないと初回面談はできない。健診を契約している健診機関のうち、3分の1くらいの健診機関が特定保健指導実施の委託契約をしている状況である。保健指導者がいる健診機関へは、特定保健指導を実施していただけるよう支部として依頼し、実施機関の拡大を図っている。

**【学識経験者】**

・返納金債権の回収率については、件数ベースか。それとも金額ベースか。

(事務局)

・金額ベースとなる。4月から3月までの調定金額を分母とし、回収金額を分子とした割合となる。

議題2について、事務局より資料に基づき説明。

**●インセンティブ制度に係る令和3年度実績について**

**【学識経験者】**

・秋田県では特定保健指導の実施率が全国1位となっているが、秋田支部において特定保健指導の実施率を上げるために何か効果的な取り組みをしているのか。

(事務局)

・以前、秋田支部に確認したが、特別なことはやっていないとの回答であった。特定保健指導実施率は、外部委託分と支部の保健指導者が実施する分を合算したものとなるが、秋田支部は外部委託より支部の保健指導者が実施している数が非常に多くなっているところが特徴である。

**【事業主代表】**

・後発医薬品の使用割合について、偏差値の上位は、沖縄、鹿児島、熊本、宮崎となっているが、沖縄や九州で順位が良い理由は何か。

(事務局)

・後発医薬品の使用割合の指標は、使用割合の実績と前年からの伸び率が影響する。沖縄や九州では使用割合の実績も良く、さらに前年からの伸び率も良かったということが言える。青森支部は使用割合の実績は10位であるが、前年より使用割合が伸び悩んでいる状況である。上位の支部において何が理由で前年より伸びたのか正確には把握できていない。

**【学識経験者】**

・特定健診等の実施率など5つの指標があるが、これらは事業計画上、戦略的保険者機能関係になると思うが、どのように事業計画に落とし込み課題解決していくのか、現状考えていることがあれば教えてほしい。

(事務局)

・健診は受けるだけでなく、受けたあとに生活習慣の改善に取り組んだり、重症化予防のために治療を受けたりすることが目的であることをしっかり浸透させていかなければならない。まずは健康宣言している事業所へアプローチし、事業所自体が健康づくりに積極的に取り組む姿勢をとっていただき、生活習慣改善に取り組む人を増やすという方向に持っていくことで、各指標の向上につなげたい。

・後発医薬品の使用割合については、来年度の事業計画において、差額通知発送後にアンケートを実施する。切り替えに至らない理由をアンケートから洗い出し、それに対応する対策を進めていきたい。

以上

**特 記 事 項**

- ・傍聴者 デーリー東北新聞社
- ・次回は1月に開催予定